

科目名	経済開発論特殊研究	担当者	イワサキ 岩崎 テルユキ 輝行	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	経済開発における技術進歩の経済的意味と社会制度に及ぼす影響を実証に即して理解する。実証例として、東南アジアにおける「緑の革命」を取り上げる。「緑の革命」は、米の高収量品種導入がもたらした経済・社会への大きな変化を意味している。それは農業における革命であるが、未だ進行中であり、また、現代において農業以外の産業における技術進歩が経済・社会に対する影響を理解するよすがとなる。		
到達目標	まず、技術進歩の概念を経済理論によって経済活動における意味を理解する。さらに、技術進歩の社会制度に対する影響を検討する。その上で、技術進歩の経済・社会への影響を「緑の革命」における実態に即して実証的に理解する。さらに、現在進行している様々な技術革新がもたらしている経済・社会に対する影響に関する考察を行う。		
学修方法	教材と参考図書（上記以外の参考図書を含む）によって、技術進歩の理論を理解し、「緑の革命」の実態を学ぶ。そして、その理解と自らの考察をレポートに纏める。さらに、技術進歩の概念に依拠しながら、また、「緑の革命」を参照にしながら、現在進行している技術革新を考察し、レポートに纏める。		
スケジュール	前期では、教材と参考図書により技術進歩の理論を理解し、「緑の革命」の実態を学ぶ。実態に即した技術進歩の概念をレポートに纏める。 後期では、現在進行している技術革新の例を取り上げ、その経済・社会への影響を分析し、レポートに纏める。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	教材と参考図書の理解と自身の考え方。
	平常評価	40%	課題への対応。
履修者への要望	理論を実証でもって理解し、現状に適用することを学ぶこと。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 速水佑次郎            教材名： 『開発経済学』創文社現代経済学選書 11（創文社，2000年）ISBN:978-4-42-389551-1            3,500円+税</p> <p>この教材の中の技術革新の理論と「緑の革命」に関連する章節のみを対象とする。技術革新を経済の側面のみならず社会制度との関連で把握し、それを「緑の革命」に適応している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 経済発展の理論的枠組み</li> <li>2, 資源の制約を打破するには</li> <li>3, 「緑の革命」の展望</li> <li>4, 共同体の役割</li> </ol>
参考図書	<p>Wilkinson, R. G. (齋藤修他訳)『経済発展の生態学』(リプロボート, 1985年) ISBN:978-4-84-570180-3            2,000円+税</p> <p>Hayami, Yujiro and M.Kikuchi <i>A Rice Village Saga: Three Decades of Green Revolution in the Philippines</i> Palgrave Macmillan 1999 ISBN:978-0-33-372617-4 21,538円+税 (Hardcover)</p> <p>Pierre van der Eng <i>Agricultural Growth in Indonesia : Productivity Change and Policy Impact since 1880 -</i> Macmillan 1996 ISBN:978-0-31-212887-6 (Hardcover)</p> <p>増田萬孝『緑の革命の稲・水・農民』(農林統計協会, 1995年) ISBN:978-4-54-101895-3 3,883円+税</p>
履修上のポイント	<p>技術革新の経済的意味とそれが社会制度におよぼす影響を理論と実証の両側面から明らかにする。東南アジアにおける高収量品種の普及は食料供給増に大いに寄与した。しかし反面、所得分配と伝統的社会制度に及ぼした影響については評価が分かれる。前期では、肯定的評価を下す新古典派経済理論の生産理論に依拠して技術の選択と所得分配を論じて、正統派の解釈を学ぶ。実証の面では、フィリピンとインドネシアにおける実態調査が参考図書で紹介されており、理論との対比で「緑の革命」という技術革新が東南アジア農村に与えた影響を考察する。その対比で、アジアにおける実態の理解には新古典派理論と異なる考え方が必要であり、新しい接近方法を学ぶ。</p>
レポート課題 1	<p>「緑の革命」に即して技術革新が及ぼす社会への影響を理解すること。  <b>留意点</b>：教材に使用されている理論モデルを実態調査と照合して理解する。その上で、そのモデルの妥当性を検討する。</p>
レポート課題 2	<p>フィリピンとインドネシア農村の実態と比較して行う理論の解釈と適応可能性を検討し、現在の通信技術を含む技術革新の社会への影響を考察すること。  <b>留意点</b>：1. 新品種導入に伴う経済的制度的変化の把握 2. 調査結果と理論とを対比して「緑の革命」を評価 3. 現代の技術革新が持つ社会的意味の考慮。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 岩崎輝行            教材名： 『「緑の革命」と所得分配：理論の批判的検討』            「国際関係研究」第14巻1号（平成5年7月）（事務課から送付）</p> <p>高収量品種導入が農村共同体内所得分配を悪化させ農業部門から工業部門への所得流出を引き起こす可能性が高いことを理論的に明らかにする。その主要原因は生産動機の変化と化学肥料等工業生産物の投入および所得再分配機能を持つ伝統的慣行の変貌にある。インドネシアにおける実態調査に基づいて考察する。</p>
参考図書	<p>Griffin, K. <i>The Political Economy of Agrarian Change: An Essay on the Green Revolution</i> Macmillan 1979 ISBN:978-0-33-324578-1 9,594円+税 (Paperback)</p> <p>石川滋『開発経済学の基本問題』(岩波書店, 1990年) ISBN:978-4-00-000332-2</p> <p>中岡哲郎『日本近代技術の形成：〈伝統〉と〈近代〉のダイナミクス』(朝日新聞社, 2006年) ISBN:978-4-02-259909-4 2,100円+税</p>
履修上のポイント	<p>教材2は教材1に対する理論的批判を展開している。まず、新技術が導入される前の農村共同体の経済体制の働きを明らかにする必要がある。多くの経済活動は慣行によって決められ、市場取引の内容と規模は限定されている。慣行は分業形態のみではなく所得分配・再分配機能を持ち、それが共同体社会の安定に寄与してきた。そのような経済に新技術が導入されると、外部の経済との取引が発生して市場が拡大すると共に伝統的慣行が徐々に崩れて行く。新技術は生産の増大に寄与したが、所得分配を悪化させる傾向があることを、実証を踏まえて理論的に明らかにする。</p>
レポート課題 1	<p>伝統的農村共同体経済の機能  <b>留意点</b>：伝統的慣行は共同体社会において様々な機能を持つ。例えば、相互扶助の慣習は共同体の道徳・倫理の基礎を成すが、生産の面では分業の形態に影響を与える。稲作に係わる伝統的慣行と生産・分配の関係を考察する。            主要な論点は以下の通り。            1. 土地や資本財の所有権 2. 生産の動機 3. 小作制度 4. 農工間所得移転</p>
レポート課題 2	<p>生産・分配に及ぼす新技術の効果を教材1の解釈と対比して技術移転の所得分配効果を考察すること。  <b>留意点</b>：レポート課題1で学んだ伝統的農村共同体経済の機能が現在どのように変容し、それが新技術によりいかなる影響を受けているか考察する。</p>